

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4077700096
法人名	社会福祉法人 ふたば会
事業所名	グループホーム ふたば
所在地 (電話番号)	福岡県三井郡大刀洗町高樋 1245-1 (電話) 0942-77-0877
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年12月8日

【情報提供票より】(平成20年11月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 8.02人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,010 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	160 円	昼食	310 円
	夕食	310 円	おやつ	170 円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(平成20年11月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	57 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院、嶋田病院、門司歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな田園地帯に位置する建物の二階部分にあるホームは、四季の移ろいが肌で感じられる環境にあり、玄関に入ると同時に和やかで落ち着いた雰囲気を感じられる。全職員の穏やかでゆったりとした対応は、高齢者介護の意義を見据え、人のつながりと職員のチームワークを大切にする管理者の思いが反映されており、利用者・家族にとっても安心した生活の場となっている。隣接する経営母体である特別養護老人ホーム、階下のデイサービスセンターとともに地元との交流も盛んに行われ、成人式や文化祭等、町の行事に参加したり、近隣の保育園や地域子ども会との交流、専門学校の学生ボランティアの受け入れなどにも積極的に取り組み、その存在が地域にしっかり根付いているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は第三者の意見を良い意味で取り込まなければならないという思いを強く持ち、前回の評価における改善点に関しても、即時対応し改善がなされている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、外部評価の実施意義を十分理解しており、自己評価票への記入を全職員がそれぞれ行い、ミーティングにて統一した見解を管理者が集約し自己評価票を作成している。管理者は第三者の意見を良い意味で取り込まなければならないという思いを強く持っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、毎回テーマを決めて開催している。地区々長、役場担当課長、家族も参加している。それぞれに意見をもらい、意見としてもらった言葉の良い方に向け、できることを実行しながら、サービスの向上に活かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 意見箱の設置はしているが今まで活用されたことはない。日常の会話・言葉から利用者の思いを早めに察知するようにしている。家族からの要望などを話し易いように、ホーム側から言葉かけを行い、不安を抱くことのないように、また苦情やクレームにならないように努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営母体である特別養護老人ホーム、デイサービスセンターと共同で、地域活動に参加している。お宮の清掃活動に利用者・職員とともに参加し、地元の人々との交流を重ねるなど、常に地域との連携を意識した取り組みがなされている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体である法人の理念、ホームの理念、職員自ら自分たちですべきこととして事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の「笑顔を忘れず」という理念を管理者、職員共に共有し、日々声を掛け合い、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営母体である特別養護老人ホーム、デイサービスセンターと共同で、地域活動に参加している。お宮の掃除に利用者・職員と共に参加し、地元の人々との交流を重ねるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の実施意義を十分に理解しており、自己評価票への記入を全職員がそれぞれ行い、ミーティングにて統一した見解を管理者が集約し自己評価票を作成している。管理者は第三者からの意見を良い意味で取り込まなければならないとの思いがあり、前回の評価における改善点に関しても、即時対応し改善がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、毎回テーマを決めて開催している。地区々長、役場担当課長、家族も参加して、それぞれに意見をもらい、意見としてもらった言葉を良いほうに向け、できることを実行しながらサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ネットワーク作りを目指し計画中である。行政担当者、地域包括支援センターなどと連携をとるべく、ホーム側から働きかけ努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して月1回の割合で、内部研修にて学ぶ機会がある。外部研修の参加者は伝達講習を行い、全職員が理解できるように努めている。研修記録は保管され、パンフレットなど活かされるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期発行のふたば通信と預かり金の使途をご家族あてに発送している。そのほかにも、家族の訪問時以外の様子・状態が知りたいとの要望に応じて年に2、3回報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、今まで活用されたことはない。普段の会話・言葉などから利用者の思いを早めに察知するようにしている。家族からの要望などを話し易いようにホーム側から言葉かけを行い、苦情やクレームにならないように努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員正職員であり、ホームを開設7年目になるが離職は少ない。利用者との関係性を重視しており異動も少なく、仮に異動があっても適性に考慮した異動である。また、職員が仕事に行きたくないという気持ちを抱く事のないようにしたい、という管理者の思いが、利用者へのダメージを考える気持ちとつながっている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別や年齢などを理由とする排除はない。職員間のチームワークや人間関係は良好で、職員が介護という仕事にやりがいを感じ、楽しく働けるように環境やチームワークを良好にしたいという、職員を思いやる管理者の配慮が見られる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年度の初めに、全職員を対象とした人権教育が行われている。年1回開催される行政主催の人権教育研修にも参加し、伝達講習も行われ、研修記録も保管されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外を問わず、研修受講の機会は多くあり、外部研修に関しては勤務扱いとし、職員の経験や個人の能力に応じて受講するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し、職員は他グループホームとの交流や研修に参加している。そこで得た事を参考とし、サービスの質の向上に活かしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては、事前に1. 2回訪問し、顔なじみの関係を作れるようにしている。職員は事前にフェースシートから利用者の情報を把握し、入居契約時、家族が契約書を取り交わす間、利用者に関わりを持ち馴染めるように心配りをしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>炊事、食後の片付け、洗濯物をたたむなど、日常生活の中でできることは、利用者個人のできる範囲内でもらっている。管理者、職員は利用者がわがままや意見を言えるような雰囲気作りに気をつけており、利用者の表情や言動から支えあう関係が見てとれる。</p>		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者日々の言動から、思いや不安、希望などを推し量り確認するようにしている。家族の面会訪問時は、思いや意向を聞いたり、関係者からも情報を得ている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者1～2名の担当制をとっている。担当者会議で出された意見を基に、日々の生活の中での気づきを取り入れ、利用者本位の計画を作成している。本人・家族からは了承の署名・捺印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の基本的な見直しをしている。利用者の状況に応じて、現状に即した柔軟な計画の変更をしている。また、状態が安定している利用者でも月に1回程度は新鮮な目で見つめて実情に即した見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎等は利用者・家族の状況により、必要な支援は柔軟に対応している、利用者が入院した際は、家族、医療関係者と連携を図りながら支援している。面会時は状況把握に努め、利用者を励ますなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族から意向を聞き、かかりつけ医、事業所協力医の受診を支援している。通院支援の方法や情報伝達の方法は話し合いのうえ合意を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関する考え方、医療機関や医師との連携体制など、利用者、家族と話し合いや意思確認の方法に関する指針がある。方針については、折に触れ家族等には説明を行っており、利用者、家族、かかりつけ医、職員の全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけの際は、利用者の気持ちを考え考慮して行っている。職員同士でも注意を払い、接遇マナーやプライバシーについての外部研修を受講するなど、職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、日々の暮らしの中では利用者の希望を優先し臨機応変に対応している。気分転換を目的とし、利用者は職員と買い物や散歩に出かけ、生活リハビリなどもしている。朝ゆっくり眠っていたいときには、意向に添い満足できるような支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に、食事の準備や後片付けを行っている。同じテーブルで同じ食事を、和やかに会話しながら摂っている。一部食事介助の必要な利用者には、職員がとなりの席で、違和感なく自然に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日まで、利用者の希望を優先しながら入浴支援を行っている。入浴拒否の利用者にも、毎日入浴を促す声かけを行い、入浴につながるような対応を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、人生の先輩である利用者一人ひとりの経験を発揮できるように配慮している。買い物の手伝い、食材の皮むきや配膳、後片付け、洗濯物干しや取り込んだ後のたたむ作業、花の植えつけなど、日常生活の中で楽しみながらの役割、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調管理しながら、利用者の希望に添い外出支援を行っている。買い物や散歩は特別なものではなく、日常生活の一環として支援している。週1回のドライブや年間行事として外食支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関・居室の施錠はしていない。利用者が屋外に出たいような様子であることを察知した場合、職員はともに散歩に出るなどの対応をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回、母体法人とともに、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。マニュアルも作成されており、地域住民への協力呼びかけは運営推進会議や、夏祭りなどの際にも行われ、消防団との連携も取れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量は毎日記録している。職員は利用者の希望を聞きながら食事メニューを作成しており、栄養士が専門的な立場からのアドバイスをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはゆったり腰掛けられるソファが十分に設置されており、壁には季節に合わせた利用者の作品が飾られている。台所からは御飯の炊き上がる匂いや、食材を刻む音が聞こえ、利用者が自分のできることをしながら、好きな場所で居心地よく過ごせるように工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者は使い慣れた馴染みの筆筒などの調度品を居室に持ち込んでいる。家族の写真や孫の描いた似顔絵などが飾られ、利用者にとって安心して居心地良く過ごせる工夫がされている。</p>		